

## 頭頸部悪性腫瘍

鼻腔癌、副鼻腔癌、耳下腺癌、外耳道癌に加えて、腺様嚢胞癌や悪性黒色腫などの一般的に放射線が効きにくい種類のがん、頭蓋底の骨軟部腫瘍（脊索腫、軟骨肉腫など）に対して、健康保険で陽子線治療が受けられます。陽子線治療だけでなく、外科手術や化学療法を組み合わせた集学的治療を行うことが一般的です。

### ○治療期間

- ・6～7 週間（悪性黒色腫の場合は 2～5 週間）

### ○治療部位となる病態・条件など

- ・他臓器への転移がない場合  
（ただし、腺様嚢胞がんの場合は、無症状の肺転移を有するものも適応となる可能性があります。）
- ・頭蓋底の骨軟部腫瘍では、手術が不可能な場合や手術で完全に摘出することが難しい場合。

### ○主な適格条件

- ・組織診・細胞診で悪性と証明された原発性頭頸部癌あるいは原発性頭蓋底腫瘍
- ・他臓器転移がない
- ・手術非適応・拒否例

### ○主な不適格条件

- ・鼻腔・副鼻腔・聴器以外の扁平上皮癌（喉頭癌、上咽頭癌、中咽頭癌、下咽頭癌、口腔癌、舌癌など）である。
- ・疼痛などの影響で、治療体位での 20-30 分程度の姿勢保持が困難である。  
（一般的には安静臥床での治療となります。）

### ○治療にあたっての留意点

頭頸部領域は重要な神経や機能が密集する部位であるため、陽子線治療を用いても重篤な有害事象を生じる可能性があります。

副作用は、病巣の部位や大きさにより異なるため、診察時に詳しく説明します。

### ○線量分割

<悪性黒色腫以外の場合>

	線量分割
根治照射	65-74Gy(RBE)/26-37回/約6-8週間
術後照射	66-70Gy(RBE)/33-35回/約6-7週間

<悪性黒色腫の場合>

	線量分割
根治照射	60Gy(RBE)/15回（週3回照射）/約5週間
術後照射	30Gy(RBE)/5回（週3回照射）/約2週間

### ○可能性のある有害事象

・早期有害事象(照射中～照射後3ヶ月)

皮膚炎、結膜炎、眼脂、流涙、口内炎、咽頭炎、鼻炎、中耳炎など

・晩期有害事象(照射後3ヶ月以降)

視力障害、口腔粘膜潰瘍、咽頭粘膜潰瘍、鼻乾燥・鼻閉、中耳炎、聴力障害、顎骨壊死、歯牙脱落、開口障害、脳壊死、下垂体機能低下、二次発癌など

※上記すべての有害事象が起こるわけではありません。発生頻度も腫瘍の部位やサイズによって大きく異なります。詳しくは受診時に担当医からご説明いたします。